

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・渡方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/
 190号 2020.1.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介

座禪洞だより

「核と人類は共存できない」 一核による危機そして地球温暖化と闘う年に

松井 英介



「グreta・パニック」という言葉が世界中を歩き回っています。危機的な地球温暖化問題を解決するために立ち上がろうと訴えたスウェーデンの16歳、グreta・トゥンベリさんの発言に対して、世界各地で噴き出した大人たちの心ない感情的反応。大人たちの中にはトランプ米大統領も含まれています。

グretaさんをはじめ世界中の若者が行動を起こし、各国に実効性のある対策を訴えた気候変動枠組み条約第25回締約国会議（COP25）。会議はパリ協定の実効性あるルール作り合意を断念。日本は温室効果ガスの削減目標を引き上げず、石炭利用を続ける姿勢を示し批判を集めました。12月15日、残念ながらCOP25は若者たちの声に応えることなく閉幕しました。

ベルリン在住のジャーナリスト梶村太一さんは、書いています。

「ドイツ社会ですら非寛容な排外主義が台頭してきている。しかし他方で、この傾向に強い抵抗力を持っているのもこの社会である。強力で広範な市民運動と、特に環境保護運動を背景にした緑の党の躍進がその現れだ」。

太一さんは、昨年1月25日の寒い日に行われたベルリンで初めての「未来への金曜日」学校ストライキデモの様子を紹介しています。生徒たちはデモの前に、経済エネルギー省前広場に集まり、大臣に脱炭素政策促進などの要望書を提出しました。

「この日私が一番驚いたのは、小学生までが大勢参加して、その場でプラカードを作っていたことだ」。「昨年9月20日の世界中で合計400万人の参加があったとされている気候デモのうち100万人はドイツ全国の参加人数であり、ベルリンでは27万人もの大デモとなった。これには若者だけでなく高齢者まで幅広く参加していたが、小学校ブロックだけでなく、なんと保育園ブロックまであり、乳母車が列なり、母親に抱かれた赤ん坊までが授乳されながら行進した。こんな光景は初めてでたまげたものだ。緑の党の背景にしているのはこのような広範な市民である」¹⁾。

日本はどうでしょうか。福島原発大惨事に対する政府の対応。12月23日経産省は、タンクに貯められた大量の核汚染水を海と大気中に放出する案を示しました。漁民は反対の声を挙げています。しかし、全国的な抗議行動にはなっていません。最大の問題は、原発大惨事がまき散らした核によるいのちの危機が調査すらされず、避難の権利が未だ保障されていないことです。次世代とともに闘う年にしましょう。

【参考資料】

1) 梶村太一「統一30年——危機と対峙するドイツ市民世界」世界2020 January No. 928. P. 130~8